

# 豊臣・徳川の400年

2015年は、大坂夏の陣、そして徳川家康の没後400年の節目の年です。西では「大坂の陣400年天下一祭」を、東では「家康公四百年祭」を開催。歴史のロマンから連なる新しい年が、今、始まろうとしています。

## 大坂の陣 400年天下一祭

冬の陣: 2014年10月1日~12月31日 / 夏の陣: 2015年春夏

「すごいこと、おもしろいこと、うまいもんなら天下一」、そんな心意気のもとに開催される「大坂の陣400年天下一祭」。大阪城だけでなく市内や府域エリア、さらに府外にも数多く存在する大坂の陣ゆかりの地で、たくさんのイベントが開催される予定です。

また、「城を主体とする空前のフェスティバル」や「世界中から観光に来ていただける空前のフェスティバル」、「新しい大阪の姿をしめす空前のフェスティバル」など、都市の魅力を最大限に伝えるための祭を計画。大阪の魅力ある新しい時代が、ここから始まります。

### ■大坂の陣とは?

豊臣秀吉の死後、豊臣政権内部の対立が激化。慶長5年に関ヶ原合戦が起こり、徳川家康率いる東軍と石田三成らによる西軍が激突しました。結果は、徳川家康が勝利。徳川家康は征夷大将軍に任ぜられ、江戸に幕府を開きます。しかし、大坂城には秀吉の遺児である豊臣秀頼が、徳川家をしのぐ権威を保持したまま君臨していました。そして、慶長19年に「大坂冬の陣」が、翌20年に「大坂夏の陣」が起こったのです。慶長20年5月7日に大坂城は落城し、翌8日に秀頼と母、淀殿が自害。こうして豊臣家は、滅亡しました。戦国時代最後の大合戦、それが大坂の陣です。

**豊太閤 なにわの募金**  
大坂本願寺から豊臣時代、徳川時代を経て、近代、現代へと時を重ね、歴史を刻んできた大阪城。その重層する歴史を象徴する遺構のひとつが、豊臣秀吉が築いた地下に眠る初代大坂城の石垣です。今回、昭和59年に発見された石垣を掘り起こし、大阪城の歴史文化に触れ、新たな魅力を感じていただける公開施設の整備を進めるため、皆様からのご寄附を募ります。

- 募金目標額: 5億円
- 募金の対象者: 広く国内外の個人、法人、団体からの寄附を募ります。
- 詳しくは、ホームページをご覧ください  
<http://www.toyotomi-ishigaki.com>



2015年

## 家康公 四百年祭

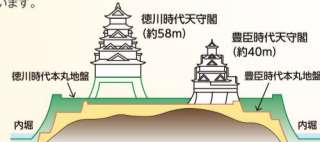
2015年1月1日~12月31日

徳川家康公が亡くなって400年という節目の年に開催される「家康公四百年祭」。静岡市、浜松市、岡崎市を中心に、静岡県内の多くの周辺市町でイベントが予定されています。テーマは、家康公が礎を築いた「世界史上例を見ない平和国家」「究極の循環型社会」「文化の成熟期」であった徳川時代を再考し、その知恵を未来へと発信すること。そして、世界的な偉人である家康公を再認識し、地域の活性化へとつなげること。「家康公四百年祭」から新しい静岡が生まれようとしています。



### 地下に眠る豊臣大坂城

大坂夏の陣で豊臣家が滅びた後、徳川幕府は豊臣大坂城を覆い隠すように徳川大坂城を築きました。豊臣秀吉が築城した初代の大坂城は、「三國無双の城」と呼ばれる豪華華麗な城だったと伝えられています。その勇壮な城は、今も大阪城の地下に眠り続けています。



### 豊臣家の家紋とは?

豊臣家の家紋としても知られる桐紋。3本の直立する茎と3枚の葉から構成されるのが基本的な図案です。秀吉が羽柴姓を名乗った頃、信長から「五三の桐」を与えられ、また同時に「五七の桐」を利用していたとする説もあります。さらに「太閤桐」という紋を創作し、豊臣家の象徴としています。



五七桐

### 徳川300年の歴史を伝える浜松城



自然石をそのまま積み上げた野面積みで知られる浜松城。徳川家康が築いた城郭は、南北約500m、東西約450mの大きさで、西北の天守曲輪から、本丸、二の丸、三の丸とほぼ一直線に並ぶ「梯郭式」の築城法がとられています。260年の間に25代の城主が誕生し、老中5人、大坂城代2人、京都所司代2人、寺社奉行4人(兼任を含む)など多くの浜松城主が幕府の重役に出世。そのため浜松城は、出世城とも呼ばれています。特に有名な人物としては、天保の改革を行った水野越前守忠邦があり、浜松城主となることを自ら望んだと伝えられています。

### 葵のご紋とは?

徳川家の家紋として有名な「葵」のご紋。元々は、京都賀茂神社の御神紋として使われていたものを、徳川家の先祖である松平家が賀茂神社の有力な氏子であったことから使用したと伝えられています。また、葵の紋にもいくつかの意匠があり、徳川家康公の代になってからは「三つ葉左葵巴の紋」が定着。徳川三代の家紋として使用しはじめたと言われています。

